



ぐんま高次脳機能障害
あんしんブック

この冊子のつかいかた

この冊子は高次脳機能障害について
広く、県民のみなさまに知ってもらうこと、
そして実際に高次脳機能障害をお持ちの方、
そのご家族や支援者に役立ててもらうことを
目的に作成しました。

＊

ご本人、ご家族は情報ツールまたは記録として、
支援者の方は説明などにご活用ください。
支援者と一緒に使用いただくことをお勧めします。

＊

必要なページのみを印刷して使用いただいても
結構です。

目次

高次脳機能障害を知る

- * どのような時に高次脳機能障害を疑いますか？
- * 高次脳機能障害とはどのような障害ですか？
- * どこで診断ができますか？
- * どのような症状が出ますか？
- * どのように対応すれば良いのでしょうか？
- * 高次脳機能障害はよくなりますか？

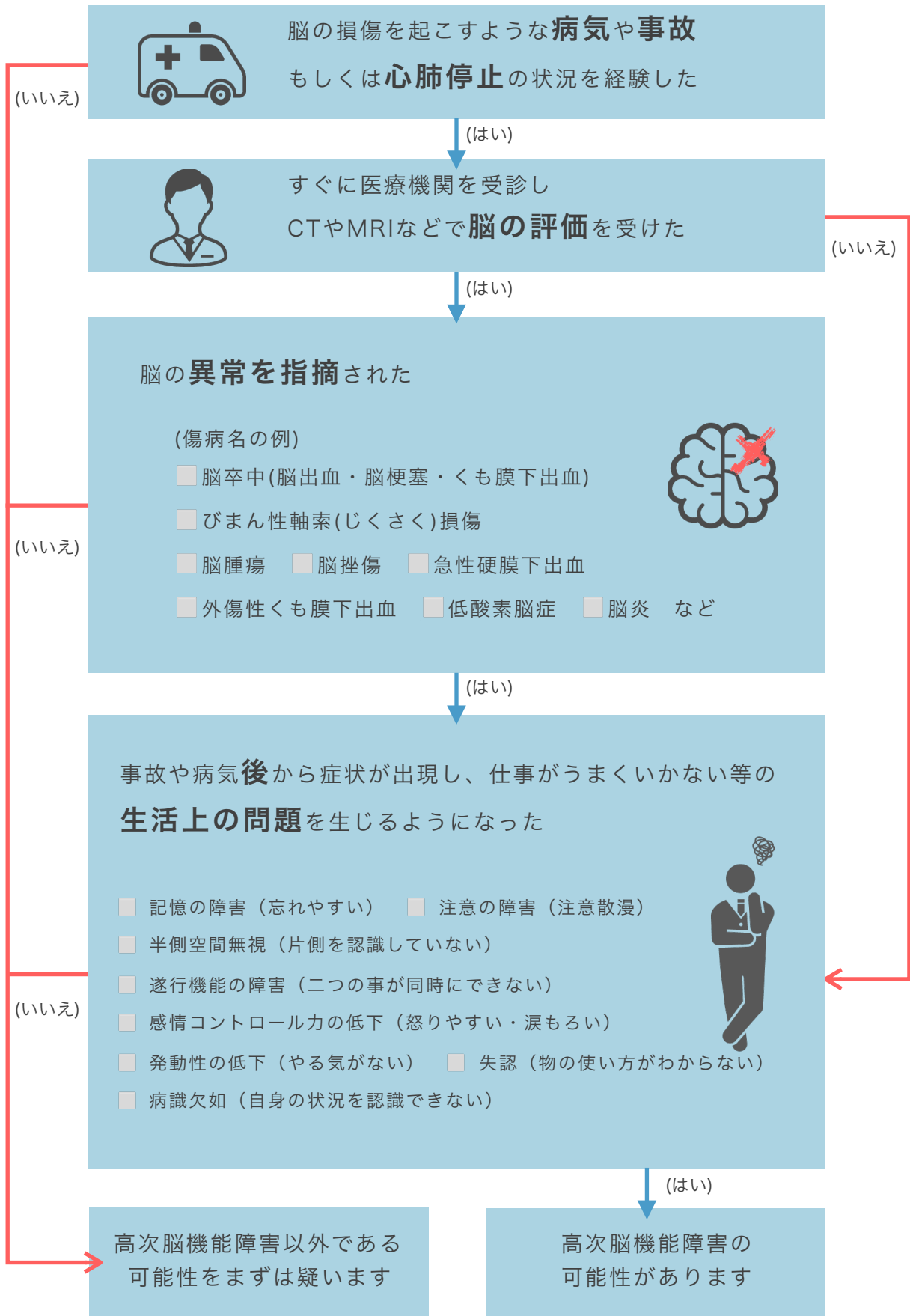
社会復帰までの流れを知る

- * どの時期にどのようなサービスが使えますか？
- * 制度について知りたいのですが
- * 自動車運転再開の評価は受けられますか？

症状を周囲に伝える

- * 診察の時に医師に効率よく症状を伝えるには？

どのような時に高次脳機能障害を疑いますか？

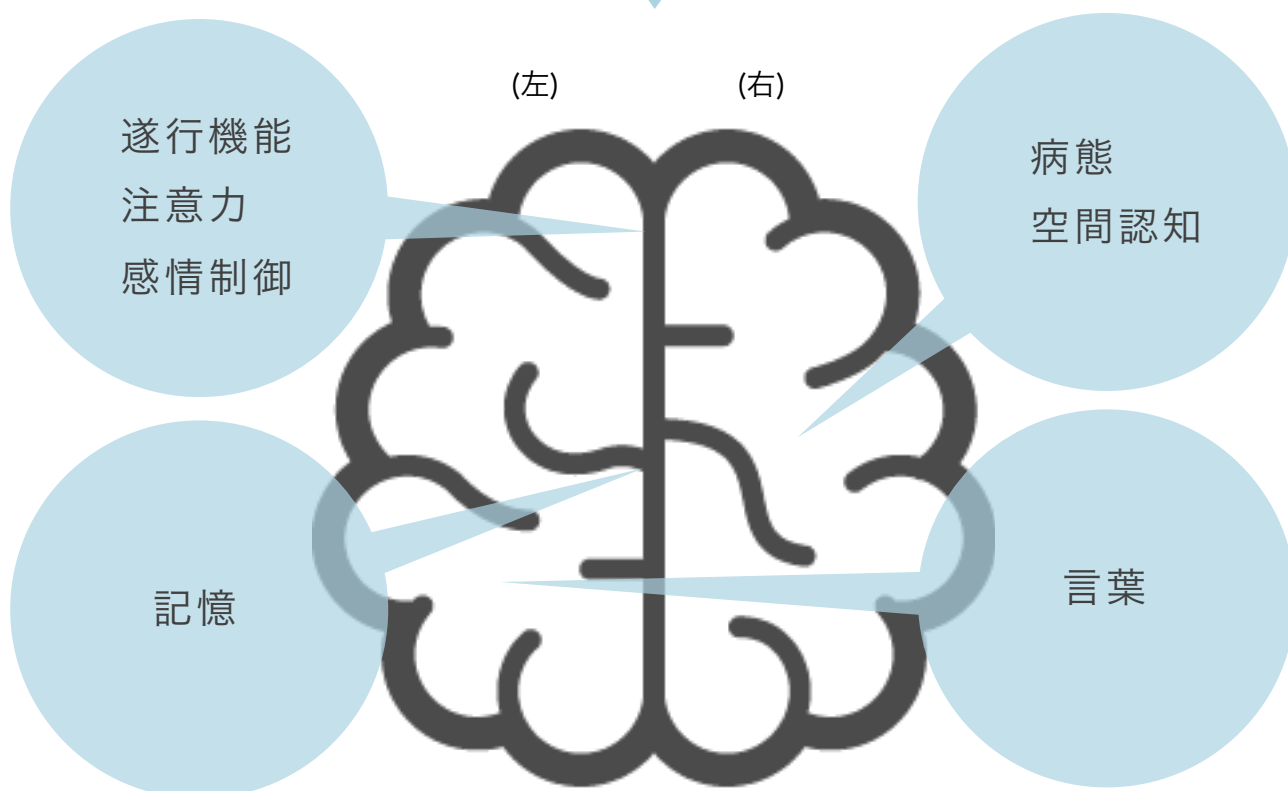


高次脳機能障害とはどのような障害ですか？



脳の損傷に伴う、記憶力・注意力
遂行機能・感情コントロールが苦手にな
る等の**認知機能**の障害です。

脳は部位ごとに役割があります。
脳に傷がつくと、傷がついた部分が担当していた役割が果た
せなくなってしまう、症状として現れます。



どこで診断できますか？

診断が可能な医療機関



脳の評価が可能な
医師が在籍



神経心理学的検査の
実施・評価が可能

県内でも上記を満たす機関は複数ありますが、診断には次のような情報も重要です。

診断に必要な情報



受傷・発症時の
客観的情報



受傷・発症前の
生活状況などの情報



現在の医療情報や
リハビリ状況など

など

診断には本人の今までの経過などが必要になることから、ご自身の事故や病気の経過がよくわかる、医療機関の先生にまずはご相談いただくことをお勧めします。現在受診機関がない方や、どこに相談をしてよいかわからない方は、群馬県高次脳機能障害支援拠点機関（前橋赤十字病院：027-224-2995）にご相談ください。

どのような症状が出ますか？ / 対応方法は？

脳のどの部分が傷ついたかによって、症状はひとそれぞれです。
代表的な症状は次の通りで、次のページ以降で一般的な対応方法とあわせて紹介します。症状と対応方法をご自身やご家族が確認したり、支援者の方がご本人に症状を説明する際にも利用してください。



記憶障害



注意障害



遂行機能障害



病識の欠如



発動性低下



易疲労性



脱抑制



失語



など

■ 覚える、思い出すことが苦手になる



ご本人

- 約束をした覚えがないのに約束忘れを指摘される
- 初めて尋ねるはずなのに教えた筈だと指摘される
- 話した内容が事実ではないと指摘される

ご家族/支援者

- 約束を忘れる（約束したこと自体を忘れる）
- 何度も同じことを聞き返す
- 実際の出来事とは異なることを話す

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：HDS-R/MMSE/WMS-R/三宅式記憶力検査/ペントン視覚記憶力検査/REY図形テスト/RBMT/他

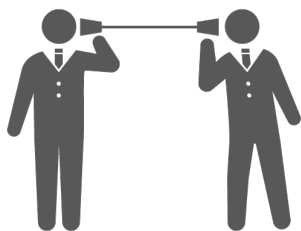
家庭や職場でできる一般的な対応方法



その時、その場で記録
メモ帳やタブレット端末などを活用



五感を使って記憶
視覚/聴覚/触覚/臭覚/味覚



短い言葉で伝える
わかりやすい方法を使う



失敗時、過度に責めない
建設的に一緒に考える

■ 集中や注意力を向けることが苦手になる



ご本人

- できたつもりでも多くのミス指摘される
- 周囲の物や人や音が気になり作業が続かない
- 片側を見落とすと指摘される（半側空間無視）

ご家族/支援者

- 単純なミスが多く、指摘してもなおらない
- 注意散漫、集中困難な様子が見て取れる
- 片側の物を見落とす、認識していない様子

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：(全般性注意障害) CAT/CAS/D-CAT/他：(半側空間無視) BIT/線分抹消検査/図形模写検査/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



集中できる環境を作る

静かな場所、物を片付ける
壁に向かって作業をする など



作業に興味関心を取り入れる

好きなことは取り組みやすい



こまめな休憩をとる

集中できる時間を知ることが重要



焦らせない

本人ペースを見極める

■ 行動を計画、実行することが苦手になる



ご本人

- 効率が悪いと人から指摘される
- 急な予定変更があるとパニックになる
- 作業時に何から手をつけていいかわからなくなる

ご家族/支援者

- 優先順位が決められない
- 急な予定変更に対応できない
- 工程が多いと何から手をつけてよいかわからない

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください

実施検査：BADS/WCST/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



人に助けを求める

パニックになったら誰かに相談



同時に作業をしない

ひとつずつ作業を行きましょう



指示は具体的に出す

「掃除をして」ではなく
「どこを、どれくらい掃除をして」と



相談先を明確にする

困ったらこの人へ相談

■ 自身を客観的に捉える事が苦手になる



ご本人

- なんとも無いと思うのに周囲は以前と違うと言う
- 以前と同じように作業も生活もできると思う
- 問題の原因は自分ではなく、他にあると思う

ご家族/支援者

- 周囲がリハビリを勧めても不要だと言う
- 周囲が難しいと思う状況でも本人はできると言う
- 間違いを指摘しても認めようとしない

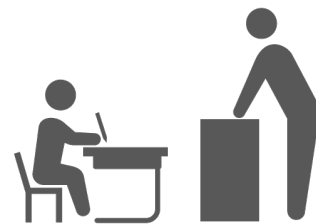
支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：TBI-31/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



信頼の置ける人に相談

以前の自分と違う点があるか
聞いてみるのも一つ



その時、その場で

間違いがあったらその場で振り返り



客観的な評価を得る

高次脳機能障害の評価を受けて
客観的な目で見てもらおうのも一つ



同じ状況の人と交流

同じような悩みを
抱えているかもしれません

■ やる気が起こらなくなる



ご本人

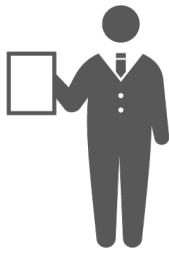
- 日常生活で必要なこと(洗顔など)も億劫だ
- 気がつくと時間が経過している
- 以前は楽しかったこともやる気が起こらない

ご家族/支援者

- いつもボーッとしており促してもやろうとしない
- テレビや新聞をただ眺めているだけの様子がある
- 趣味がなくなった

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：TBI-31/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



やることリストを作る
使う練習も重要



作業に興味関心を取り入れる
好きなことは取り組みやすい



選択肢を用意する
行動のきっかけ作りとして



医療者に相談する
薬の副作用の場合もあります

■ 疲れやすくなる



ご本人

- わずかな時間の軽作業で強い疲労感がある
- わずかな時間の軽作業で思考速度が遅くなる
- わずかな時間の軽作業で眠くなる

ご家族/支援者

- 作業開始からあくびばかりしている
- 作業開始後わずかな時間で動きや反応が遅くなる
- 夕方頃には起きていられない、イライラしている

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：TBI-31/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



適宜休憩する

休憩時間の配慮をお願いします



軽い運動をする

30分程度の軽い運動をしましょう



周囲が疲労サインを知る

周囲が積極的に休憩を勧めましょう



環境を整備する

静かな環境の方が疲れにくいです

■ 気持ちを制御できなくなる症状



ご本人

- イライラが我慢できない
- 不適切な行動とわかっていながらやってしまう
- 感情の起伏が激しいと指摘される

ご家族/支援者

- ちょっとしたことでもイライラし怒鳴る
- 思った事を周囲の状況に関係なく行動に移す
- 喜怒哀楽が激しい

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：TBI-31/WOOD法/ABS適応行動尺度/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



医療者に相談する

イライラの症状は辛いものです
落ち着く方法を聞いてみましょう



その場を離れましょう

議論は落ち着いてから



一人で悩まない

感情がぶつかると家族も大変です
家族も本人も一人で抱え込まないように



環境を整備する

苦手な環境を避ける工夫をしましょう

■ 頭の中で地図が描けなくなる障害



ご本人

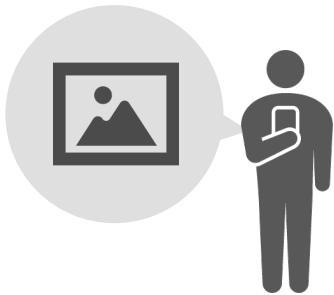
- よく知っているはずの道で迷子になる
- お店でトイレに行くと元の席がわからなくなる
- スーパーなどに入ると出てくる事ができない

ご家族/支援者

- よく知っているはずの道で迷子になる
- お店でトイレに行くと元の席がわからなくなる
- 外出時は常に誰かと一緒にしようとする

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：行動観察/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



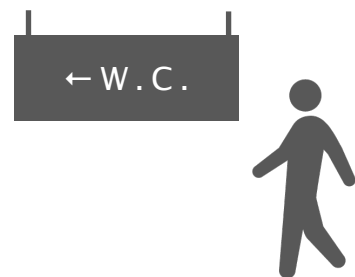
手順書のようにわかりやすいものを



パニックになる前に誰かに相談



周囲に症状を伝えておきましょう



社内案内板などがあると迷いません

■ 言葉を理解、話す、書くことが困難になる（失語症）



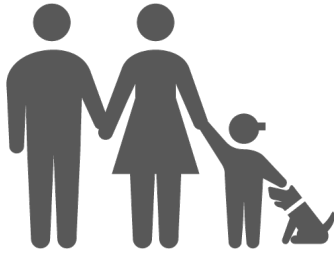
ご家族/支援者

- 言葉を言い間違える(時計を言いたいのに眼鏡)
- 言葉は聞こえているようだが理解できない
- 同じ言葉を繰り返す

! 失語症は医学的には高次脳機能障害ですが、行政的には言語障害として身体障害に位置付けられており、身体障害者手帳の取得が検討できる症状です。

支援者が検査を実施した場合、検査項目に○をし、必要に応じて各機関様式を別紙添付してください
実施検査：SLTA/WAB/老研版失語症鑑別診断検査/他

家庭や職場でできる一般的な対応方法



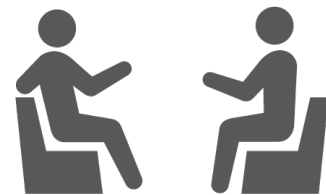
コミュニティへの参加
積極的にコミュニケーションを



ノンバーバルも使って
ジェスチャーなどを用いて



Yes, Noで答えられる質問
コミュニケーションが取りやすい
質問方法を一緒に探りましょう



ゆったりコミュニケーション
急かさない環境づくり